

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403699		
法人名	有限会社 ホライズン		
事業所名	グループホーム 内郷		
所在地	福島県いわき市内郷高坂町大町27-1 (電話) 0246-45-2021		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年4月25日	評価確定日	平成19年5月30日

【情報提供票より】(平成19年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年3月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤4人, 非常勤8人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1		名	要介護2	1名	
要介護3	4名		要介護4	1名	
要介護5	3名		要支援2	名	
年齢	平均 86歳	最低	80歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さかもと胃腸科内科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は管理者でもあり、以前介護職として従事していた経験を活かして事業を展開させ、訪問介護・宅老所を立ち上げ運営してきたが、ケアサービスを提供して行く中で様々な問題に直面し、運営者が求めている「認知症になっても地域の中でその人らしく暮らし続けられる」ことの実現を目指してホームを開設した経緯がある。開設して1年余であるが、日常的に適切な指示や助言をしてくれる協力医と信頼関係を築き、その都度相談に応じてもらえる体制を確保し、作成されたケアプランを渡して連携をとっている。さらに、入居者にとっていい事を柔軟に取り入れながら、その人らしさを大切に支援している。今後は地域の理解と支援を得るための貴重な機会として運営推進会議を開催し、会議での意見等をサービス向上に活かしてさらなる充実を期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者はミーティング時に外部評価の主旨や意義について職員に説明し、初回ということでありのままにホームの現状を自己評価し、今後に活かせるように取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 3月の開催を目標に準備を整え進めてきたが、関係機関との調整がうまく行かず設置までに至らなかった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者の日々の健康や生活状況、行事の参加呼びかけ等はその都度面会時や電話にて伝えている。運営に関する苦情や意見は苦情解決実施手順や苦情処理マニュアルを整備し対応している。家族から出された要望や意見はミーティング時に話し合い前向きに受け止め速やかな対応で運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会等にはまだ加入していないために近隣住民との交流や地域活動に参加する機会はないが、地域の介護老人保健施設やデイサービス、ボランティアの方々とは行事を通して交流している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で考え作りあげた「地域社会との交流や、愛と夢のある家」の理念を基に入居者の立場に立ち、その人らしく生活できるように支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング時には理念を議題にした話し合いを行う等、理念を具体化し、意識づけをし共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会等にはまだ加入していないために近隣地域住民との交流や、地域活動に参加する機会はないが、地域の老健やデイサービス等の施設とは行事を通して交流してる。		事業所が地域の一員として、町内会や自治会等に参加し、地域活動や行事等に参加し、地域の方々との関係づくりに取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の主旨や意義について職員に説明し、初回ということで、有りのままの現状を調査してもらい、今後活かせるよう取り組んだ		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>第一回の開催を3月に目標を立て準備を整えてきたが、関係機関との調整に時間がかかり、開催までに至らなかった。</p>		<p>地域の理解と支援を得るための貴重な機会として運営推進会議の参加メンバーには、意義や役割を理解して参加していただけるように努めてほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の生活状況や、行事の参加呼びかけ等は面会時や電話にて定期的に報告している。立て替え金の収支報告は毎月領収書やレシートを添えて報告している。</p>		<p>さらにホーム便りをホームの情報提供の機会として検討してほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情解決実施手順や、苦情処理マニュアルを整備している。家族から衣服の交換に関する意見をきっかけに、ミーティングで話し合い、洋服担当を決めるなど、家族の意見や苦情を前向きに受け止め速やかな対応で運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者や家族と馴染みの関係になっている職員については、離職を伝えている、勤務に就いて短期間は入居者が慣れるまで直接介助しないなど配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2時間のミーティングを活用し、全職員が参加し内部研修を行っている。課題を一人ひとりを出してもらい、認知症・せん妄・うつ病の鑑別ポイントや災害の対応等について勉強している、外部研修に参加した職員は申し送り時にその都度報告し、さらに事務室にも掲示するなど取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や担当職員はグループホーム連絡協議会やケアマネ会議等に参加し、同業者との交流や情報交換を行っている。		他の職員についても同業者間の勉強会や交流会を通して質の向上やケアに活かしてほしい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、日常的に学ぶ事が多くあり、昔の生活の知恵を教えてもらったり、夜勤時には体をいたわってくれたり、支援される側、支援する側の意識は持たず、自然に支えあって和やかに生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、表情の違いや行動から何をしたいか、どう過ごしたいかを汲み取り、一人ひとりの思いや意向の把握に努め支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティング時に入居者の状況等について話し合い、入居者や家族の要望を取り入れた情報交換を行い、その人らしく生活できるように日々の気づきを追加しながら介護計画を作成している。さらに作成された介護計画を協力医に渡し助言をいただいている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月と6ヶ月の期間設定しているが、日々の気づきや状況の変化は担当者と話し合い臨機応変に見直しを行い、日々の生活に反映させている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の日々の暮らしの中で協力医は、急変時の救急隊の要請や病院の確保、外来受診の際は優先的に診てくれる。また、定期的な訪問診療や日々の健康相談など通して情報のやりとりをし、関係を築いている。作成された介護計画は協力医にも渡して連携をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が骨折し一時寝たきりになり、状態が不安定に陥った事を契機に、重度化した場合のホームの方針や支援について模索しているが具体的な話し合いなどは行っていない。		終末に対する対応方針を定め、利用者、家族、医師を交えた話し合いを行い、入居者・家族の希望に沿った支援ができるように期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングで声掛けやプライバシーの保護、個人情報の取扱いの注意について話し合っている。入浴、着替え、塗り薬等の介助は同姓の職員が介助するなど配慮し支援している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に「その日」をどのように生活したいか、表情や状態に配慮しながらゆったりと過ごせるように柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はその日の状態で食器を拭いたり、食事の準備などお願いすると手伝ってくれる人もいる。昼食時に交替で休憩に入る職員がいるために、食事の介助と見守りに各々1名担当しているが、入居者と一緒に食事をしている職員はいない。		利用者の力を活かしながら、職員と買物や準備を一緒に行い、同じ食卓を囲んで同じものを食べることの大切さを理解し、職員の休憩時間のとりかたも含めて検討してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水曜日を除いて利用者の希望や状況にあわせて入浴していただいている。日中拒否しても夜に声をかけ入浴の希望があれば就寝前に入っていただくなど、その日の気持ちやタイミングに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	何故手伝いをしなくてはいけないのか思っている入居者もいるが、状況によってお願いすると手伝ってくれる時もあり、うまく持てる力を引き出している。食器拭きや洗濯物たたみなど出来そうな事は頼み、一人ひとりに合った役割を見つけ楽しみながら参加できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	暖かい日は近所におやつを買いに行ったり、車で花見に出掛けたりする機会はあるが、日常的に外出する機会は少ない。		地域との関係づくりを視野に食材の買物や外食、散歩など短時間でも外に出る機会を作してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は基本的にかけない事に努めてきたが、入居者が以前行方不明になった事が引き金になり、万が一何かあっては困るという家族の要望を踏まえ、鍵をかけることで職員の安心感になっている。		家族とも相談し、鍵をかけずに安全に過ごせるケアのあり方や、近所の人にも理解を求めて見守りや声かけ、連絡してもらえる関係づくりをしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>開設時にマニュアルや連絡網を作成し、消防署の協力を得て非難訓練を実施した。消火器の使い方をできる職員もいるが定期的な訓練は実施していない。</p>		<p>消防署と連携を図りながら、様々な時間を想定した具体的な訓練を定期的実施してほしい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の副食はまとめて調理することが多く、副食の一品は昼と夜、夜と朝、昼と夜と朝とというように献立の内容が重複している。</p>		<p>栄養のバランスや入居者の希望をとり入れた献立内容に配慮し、定期的に栄養の専門的な観点からチェックしてもらおう等検討してほしい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所・居間・談話スペースには仕切りがなく、動きや、会話、調理の音やにおいが自然に感じることができる。談話スペースは入居者の憩いの場所となっていて、昼食が済んで一休みすると自然に集まってテレビを観たり、おしゃべりして過ごす居心地のいい場所になっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全般に持ち込み品は少なくその人らしく居心地のよい居室になっていない。</p>		<p>利用者や家族と相談しながら大切にしてきた物や思い出の品を持ち込んでいただけるよう取り組んでほしい。</p>

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 内郷

記入担当者名 志賀 淳一

評価結果に対する事業所の意見

特に無し

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。